

学術ポータル担当者研修レポート

長崎大学学術情報部（附属図書館）

（１）発表資料の状況設定

工学部の教員を対象に、初めて「長崎大学学術研究成果リポジトリ」の説明会を開く。参加教員の大多数が「リポジトリ」という言葉を初めて耳にするものと予想される。

（２）発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

発表内容抄録：【長崎大学機関リポジトリについて】

機関リポジトリとは... 機関リポジトリに関する概要説明

長崎大学機関リポジトリのしくみ 機関リポジトリのしくみを長崎大学に当てはめ図示
なぜ今“リポジトリ”なのか 『学術情報基盤の今後の在り方について』、長崎大学『中期計画』、長崎大学『平成18年度年度計画』の抜粋

長崎大学の機関リポジトリサイトの紹介 トップページ及び一覧・詳細画面の例示

研究者の皆さまのメリット

1.可視性の向上 2.被引用率のアップ 3.新たな研究成果発表の場 4.学術研究成果の保存・管理 以上4点についてそれぞれ説明

学術研究成果を機関リポジトリへ！ 機関リポジトリへのコンテンツ提供依頼

コンテンツの充実 登録できるコンテンツの例示

研究成果物リポジトリ登録までの流れ リポジトリへの登録の流れを図示

講師からの助言

- ・ 「リポジトリに登録することで、他の雑誌に投稿できなくなるのではないかと。業績として認めてもらえないのではないかと」という不安を持つ先生がいるので、『学術論文は既に掲載されているものを別ルートで新たに載せる』という言い方をするのが良い。また、『プレプリントのようなルートが無かったものの投稿先として使える』『今まで公開していたものを「もっと」見てもらえる』と説明するのが良い。
- ・ 共著者の許諾に関しては、論文作成時に、リポジトリへの登録についてあらかじめ共著者の同意を得てほしいとお願いするのが良い。
- ・ 理工系の先生は、特許に関連する論文の登録について気にする人が多いので、説明時に「公表できないものは登録しなくてよい」と一言加えておくと良い。

研修発表との改訂部分

学術雑誌投稿論文 著者最終版の保存・提供

学術研究成果の提供は、電子メールで送るだけ！

以上2点のスライドを追加

(3) リハプレゼンの概要

日時：10月25日(水) 16:30-17:00 (予定) 終了時間 17:40

場所：図書館会議室

発表者：浦 (参考調査担当)

発表対象及び人数：附属図書館 研究開発室 室員有志 (4名)、図書館長 (工学部)

教員の内訳 文系3名 理系2名

今回はリハーサルではあるが、リポジトリについて知っていただき、初めて聞いた場合にどれくらい理解していただけるか、協力をお願いできるか、懸念事項は何かを確認した。

(4) リハプレゼンへの反響

- ・ 予想より好感触で、かなり理解していただけたように思う。代理登録なら登録にあまり手間もかからないし、損もないので、協力できるという意見もいただけた。
- ・ 著者版について、北大の投稿過程の図を使わずに説明したが、幸い理解していただけた。ただし、手元にある著者版は校正前で、致命的な直しが最後に入ることもあり、提供するには不安やためらいを感じるようだった。
- ・ 学会誌を編集する立場としては、学会の規則に、機関リポジトリへの搭載 OK と明記しているほうが、図書館・大学側は都合がいいのかと質問があった。学会誌が、販売するのではなく会員に配布される場合、リポジトリに登録してもらったほうが広く読者を獲得でき、学会誌の広報にもなって都合がいいという意見が聞けた。
- ・ 雑誌によって投稿論文のページ数制限があるが、同じものについて分量を多くしてリポジトリに掲載したい(リポジトリを発表の場としたい)という意見をいただいた。
- ・ リポジトリが信頼できるサイトとして確立するためには、査読にあたる役割をどこかが果たしたほうが望ましいとの意見も出たが、実現は難しいことは理解していただいた。
- ・ リポジトリの意義的には合致しないが、リポジトリを利用して業績リストを作成したいので、本文がない書誌データのみも入力してほしいと、館長をはじめとして意見があった。また長崎大学では、在籍中の研究成果の登録を想定しているが、在籍していない期間の研究成果の扱いについて、かなり質問があった。図書館としての方針を決めておく必要がある。
- ・ そのほか、提供の際の電子ファイルの形態、冊子での受付の有無、著者版、教員の異動の際のコンテンツのあり方、共著の場合の登録方針などについても、質問が相次いだ。

(5) その他（備考、今後の予定と希望）

備考：配布資料

今回は 1 枚物の説明資料（ビラ）を配布。パワーポイント画面は配布しなかった。教員から配布してほしいと要望があった。

今後の予定と希望

- ・ 今回の説明でリポジトリの理解と協力を得られる印象を得た。今後、学部単位で説明会を開いていき、コンテンツ提供をつのるとともに、個別に依頼もしていく。
- ・ 説明会の後に、構築したリポジトリに搭載済みの文献について Google で検索すると、通常のサイトよりも上位にくることがわかった。次回のプレゼンの際に、実際に Google 検索デモを行うことで、可視性向上のメリットを実感していただけるのではないかと思う。
- ・ ビラ・Web ページやグッズ作成なども進めたい。リポジトリの正式名称やロゴなどを決定する。
- ・ ハンドルサーバの問題が解決次第、コンテンツの登録をしていく。見本となる研究成果を集め、登録する。
- ・ 昨年度電子化済の学位論文について、著作権処理を行う。今後納入する学位論文について、電子納入をすすめ、著作権の許諾を先に得ておき、リポジトリに搭載しやすいルートを確立する。
- ・ 館内の協力を得ながら、学内へのさらなる周知を進める。

平林 昇（学術コンテンツ担当）

森石 みどり（学術コンテンツ担当）

浦 さやか（参考調査担当）